



ビルマに対する医療援助私見

寺 松 孝*

The Socialist Republic of the Union of Burma (以下ビルマと略記)は、最近でこそ観光客も増え、開国の傾向がみられるとはいえ、なお入国、出国は容易ではなく、政治、経済的に鎖国の状態にあると
いってよい。

幸いに、私はここ数年の間に5度ビルマを訪れ、この国の医療事情について検討する機会を得た。わが国からビルマに対する総合病院の供与という問題を中心に、開発途上国に対する医療援助についての私見を述べてみたい。

1. ビルマの医療事情

ビルマにも開業医あるいは私立病院ともいえるものはあるが、鎖国下では必要な医療資材の入手などは国立でなければほとんど不可能という事情もあって、医療レベルからも問題とはならない。国立病院では、原則として診療、治療は無料であるが、食物は特別な場合を除いて自給である。

国立病院は、18の専門、教育病院があり、その最大のものが800~1,000床をもつ Rangoon General Hospital である。病床数に幅があるのは、必要に応じて適宜病室内の手ごろな台の上に寝かせておくということである。

そのほか、200床程度の地域病院 (Divisional Hospital)、16~150床の地区病院 (Township Hospital)、16床程度の近隣病院 (Station Hospital) があり、513病院、29,000床がある。さらに、これらの病院の下に、都市部を中心とした都市保健センター (Urban Health Center) 47 と、農村部の農村保健センター (Rural Health Center) 1,077 がある。

なお、開業医は、ひとり以上の医師と数人のス

タッフで構成される200以上の医療組合 (Medical Cooperation) を作っており、全ビルマ人医師の半分以上を占める。そのほか、5,000人以上の漢方医が開業している。蛇足ながら、マンダレーには国立の東洋医学研究所もあり、漢方薬も錠剤として投与されているようであり、保健衛生上、東洋医学は重要な役割を果たしているようである。

国立病院での年間入院患者数は100万を超え、外来患者数も約1,400万人で、実にビルマ人口の約1/3が受診している。

疾病の内訳をみると、伝染病および寄生虫病が30%以上であるが、そのほかに原因不明の発熱性疾患が約11%あり、感染性疾患はおそらく50%を超すと思われる。注目すべきは、妊娠併発症、産じょく熱などが約11%あり、新生児死亡率が6%近くあることである。これらから、この国の衛生状態の劣悪さを推察しうる。

あるビルマ人医師が、この国で手術を受けると、その8割は何らかの感染症状を併発するが、これは抗生物質が不足しているからであると語ったが、私見によれば必ずしもそれだけではない。

ビルマの保健衛生を語る上で最も重要なのは、清潔な水が十分になく、身体、衣服、住居の水洗という基礎的な問題が解決されていないことである。しかも熱帯性気候下で、雨期に路上や床下に溢れた汚水からの不浄物が、乾期には風とともに家の隅々にまでばらまかれる。病院とてもこの状況をまぬがれることは不可能で、しかも、病室内には患者に食物を与える家族が出入りしているのであるから、手術室だけをいかに清浄に保とうとしてもその結果は容易に想像しうる。80%以上の術後感染は当然であろう。加うるに、この国ではガスがなく、病院の消毒用機器への熱源は主として電気で、これがまた停電や電圧の変動が常態である以上、十分な消毒は期待

* Takashi Teramatsu, Chest Disease Research Institute, Kyoto University, 53 Kawahara-cho, Shogoin, Sakyo-ku, Kyoto 606, Japan

しえないのが実情である。

このように、病院運営の基本条件を欠く上に、医療用資材は、抗生物質のみならず、ピンセットやメスに至るまで自給しうるものではなく、しかも経済鎖国の現状では輸入も十分でないのであるから、病院の十分な運営はほとんど不可能である。

私がこの国でまず感じたのは、この国で近代病院を運営するのは、砂漠の真ん中で花園を経営するに等しく、膨大な経費を要するということであった。とくに、疾患の主体が感染症であるから、病院の清浄性が大切であることはいうまでもないところであるが、その達成には、この国の政治、経済事情から考える必要があると思われたのである。

2. ビルマに対する医療援助のあり方

私は、日本政府への報告で、ビルマに近代病院を供与し、かつその十分な運営を期待するためには、次の諸条件が満足されねばならないとした。

a) 病院の清潔性の保持

井戸からの良質な、しかも十分な水の供給を第1条件とする。病院内の不断の徹底的洗浄、患者および付添い家族の水浴、衣服の洗たくなどのためである。さらに、患者給食を可及的に実施し、家族の病院内への出入りを制限する、病院内に芝生を植え、埃がたたないようにする、周辺に樹木を植える、等々である。

b) 十分な電力の供給

そのためには、自家発電は絶対に必要であり、また、発電用の重油の供給も要求されねばならない。恒常電圧下に十分な電力の供給がない限り、病院内の機器は完全に作動しないからである。

c) 医療資材の確保

当面、円滑な輸入に期待せざるをえないが、可及的に自給しうる品目を増加せしめる努力が肝要となる。わが国の供与になる製剤所も動き始めてはいるが、今後より一層の努力が期待される。とくに、メス、ピンセット、注射器のような消耗性の医療器具の自給が急務である。

d) 各種機器の修理能力の向上と部品供給の確保

技術員の養成、とくに機器の修理能力を有する技術員の養成がまず急務である。また、そのようにし

て育成された技術員を活用するためには、部品の供給が十分でなければならない。

以上の4点であるが、これらはいずれも達成の極めて困難なことどもであり、数年内に期待しうるところのものではない。

このように、基本的条件の劣悪なこの国では、近代的病院を供与しても、決して十分な活動はみられないであろうし、両三年後にはほとんどの機器の能力が大幅に低下することは目にみえているところである。しかも、ビルマが現在の鎖国的状態を維持しようとする限り、上記の条件の好転を期待しえない。

一方、ビルマ政府側の関係者に会い、先方の要望を聞いてみると、医師でさえも、現在日本での最高級の能力、機器を有する病院を建ててほしいとのことであった。維持はできるのかと聞いてみると、大丈夫できるとの返事である。最高級の医療用機器の維持、補修は、わが国においても頭の痛い問題であるのに、ビルマで大丈夫といわれても首をかしげざるをえない。

要するに、ビルマでは、政府要人にも医師にも近代病院、ひいては近代社会の何たるかが真に理解されていないと思われたのである。この私の見解が誤りであれば誠に申し訳ないといわねばならないが、私のみたビルマの現状からは、長期の鎖国のための情報不足からの無知があるといわざるをえない。

このような見解をもたざるをえないにもかかわらず、私は、日本政府に対して、やはりビルマに対してかなりの能力を有する総合病院を供与すべきであると答申したのである。むろん前記の条件をつけてではあるが、それらを達成しがたい条件がそろっているにもかかわらず、このような肯定的な答申したのは、明治以来のわが国の発展の原動力が、近代文化を理解する人の養成にあったことを考え、このたびわが国が供与する近代病院から、ビルマの医師や政府が近代医学、ひいては近代科学の何たるかをみ、そのためにはいかに多くのベースを必要とするかを知ることが必要であると考えたからにはほかならない。

今回供与される病院が、ビルマの鎖国政策を改める一つの因子、あるいは捨石となることを祈るものである。(京都大学結核胸部疾患研究所教授)